

土台を据える 神のことばの権威と力

今日はまず、詩篇 19 章 12 節から 14 節までを宣言したいと思います。これらのことばは、ダビデの祈りであり、妻と私が自分たちのために数年祈っている祈りでもあります。それは、「だれが自分の数々のあやまちを悟ることができましょう。どうか、隠れている私の罪をお赦してください。」ということばで始まっており、いくつかの私たちの祈りの答えであったことに驚きました。そしてこの祈りを始めて以来、私自身振り返ってみると、私の隠れた多くの罪に神が光を当ててくださったことに驚かされています。ですから、まず私がこれを祈りますので、そのあと、最後の節をみなさんと一緒に声を出して祈りましょう。

「だれが自分の数々のあやまちを悟ることができましょう。どうか、隠れている私の罪をお赦してください。
あなたのしもべを、傲慢の罪から守ってください。それらが私を支配しませんように。そうすれば、私は全き者となり、大きな罪を、免れて、きよくなるでしょう。
私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。わが岩、わが贖い主、主よ。」

では、最後の節を祈ります。あなたも声に出して一緒に祈ってください。これは私たちの祈りです。神はあなたの言葉を受け取られるので、あなたが関係ないと思われるのであれば、祈らなくても構いません。少しずつ区切って言いますので、後について言ってください。いいですか。

「私の口のことばと / 私の心の思いとが / 御前に、受け入れられますように。 / わが岩、わが贖い主、主よ。」

では、もう一度、あなたも私と一緒に祈ってください。今度は区切らずに祈りましょう。

「私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。わが岩、わが贖い主、主よ。」

アーメン。

では、今日のテーマである、神のことばの権威と力に入っていきます。

前回の学びで、「神のことば」と言われるものは 2 通りあるとお話しました。それは、聖書とイエス・キリストで、どちらも神のことばと呼ばれます。このことは、イエスと聖書には、完全な一致があるということを明らかにしています。聖書は、書き記された神のことばで、イエスは神の個人的なことばです。イエスと本当に正しい関係を持ちたいと願うなら、私たちは聖書と正しい関係になればなりません。聖書と間違ったつながり方をしているのに、イエスと正しい関係を持つことはできないのです。ですから、今日は神のことばの権威と力という、この非常に重要なテーマを取り扱いたいと思います。

まず権威について始めましょう。権威ということばは、英語では authority で、author/著者という言葉から来ています。言い換えれば、あらゆる働きの権威は、作者の権威にある、ということです。作り出したものすべてに権威を授け

るのは、著者です。ですから、私たちは聖書の著者が誰で、みことばの著者が誰であるのかを知る必要があります。聖書はテモテへの手紙第二 3 章 16、17 節で、この疑問に明確に答えています。

「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」

ですから、あなたが、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者になりたいなら、そのすべての源は聖書にあります。パウロは、聖書はすべて神の靈感による、と言っています。ギリシャ語では、「神の息」です。息のことばと霊のことばは同じものです。ですから、聖書はすべて聖霊の権威なのです。聖霊が究極的な著者です。聖霊には様々な働きがあり、様々な方法を用いますが、そのすべての背後にあるのは、神ご自身である聖霊の権威です。

ですから、私たちが聖書と向き合うとき、神ご自身の権威と向き合っていることになるのです。

聖書はすべて神の靈感によります。部分的に、ではありません。ある人々は、自分たちが、権威があるとは認めたくない人物が書いた部分を排除しようとしています。しかし、聖書にはそのように権威のないものはありません。というのは、聖霊ご自身が神から靈感を受けているので、聖書はすべて有益なのです。つまり、聖書の中のいかなる書物も省いたり、重要でないと断言したりすることもできないのです。エズラ書やネヘミヤ書のような書物はとても重要です。雅歌もとても重要です。預言者ナホムはとても重要です。良く知られているわずかの聖句だけに注目せずに、削除されていないということは、すべて重要なのだと考えてください。

そして、あなたが整えられたいと願うなら、聖書全体によって整えられなければなりません。多くの年月が必要となるでしょうが、前進しています。神のことばを黙想し、学び、適用するにつれて、あなたはますます強められていきます。イエスの土台の上に建て上げていくことは、神のことばを聞いて行なうことだと、イエスが言われたことを忘れないでください。聞くだけではなく、聞いて、行なうのです。

そして、聖書の解釈に関しては、権限のある方はただ一人で、それはその著者です。私が書いた本に書いてある意味がよく理解できないなら、私に聞くのが最善の方法です。私こそ、その意味を知っているからです。明確に表現できていなくて、みなさんには理解しにくい部分もあるかもしれませんが、私は、その意味を知っています。そして、あなたが聖書のどのような箇所でも、その意味を知りたいなら、著者に聞いてください。その方だけが、聖書の解釈に権限が与えられているのです。

ペテロは、ペテロの手紙第二 1 章 20-21 節でこう言っています。

「それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。」

だれ一人として、「私はこれがこういう意味だ。」ということではできません。解釈する権限があるのは、聖霊だけです。

また、ペテロは続けて、

「なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。」

ペテロもまた、パウロが言った、聖書の背景にある権威、靈感の源は聖霊であると言っています、

あなたがこのように言うのも当然かもしれません。「でも、聖書を記した人たちは、とても弱く失敗した人が多いですね。それに、聖書は彼らのたくさんの罪の記録もありますが・・・」私は、聖書を書いた人たちの罪の記録こそ、聖書が正しいしるしだと考えます。今日多くの人が自分の罪を隠そうとし、自分を正しい人だと見せようとします。聖書の著者はそうではありません。詩篇のほとんどの著者であるダビデですら、その重大な罪が記録されています。

では、失敗した人々が書いたのなら、どうして聖書は絶対に誤りのないものでありえるのでしょうか。詩篇 12 篇 6 節にその疑問の美しい答えがあります。ただ、簡潔な一節、詩篇 12:6 です。

「主のみことばは混じりけのないことば。土の炉で七回もためされて、純化された銀。」

これは、金属を精錬する工程を表現しています。粘土のかまどを作り、その中に火を起し、精錬するために金属をその中に入れるという3つの工程があります。粘土の窯、それは人間のことで、単なる粘土です。そして、火は銀を精錬する聖霊で、それはメッセージです。ですから、それは失敗しやすい人が靈感を受け、権限を受け、神のことばを生み出すものと変えられることができます。もう一度言います。粘土は人間という器です。火は聖霊です。7回も精錬された銀は、完全に純粋で、それは神のメッセージです。

そして、聖書で「7」という数字は私たちを聖霊、そして完全に結び付けさせます。完全さは聖霊によるのです。

ですから、聖書は、弱く失敗しやすい、罪深い人々という土の器からできているのですが、聖霊の炎で7回精錬されてきているのです。まったく信頼できるものです。

さて、イエスご自身の聖書に対する姿勢を考察する必要があります。なぜなら、イエスの弟子である私たちにとって、イエスは模範だからです。イエスは、どのように聖書とつながっていたのでしょうか。ヨハネ 10 章 35 節を見てみましょう。イエスが、ユダヤ教の指導者たちと議論している場面です。

「もし、神のことばを受けた人々を、神々と呼んだとすれば、聖書は廃棄されるものではないから、」

前の学びで、イエスのご自分に従う人たちにみことばを語る時、神のことばと聖書という2つの呼び方を用いているとお話しました。「神のことば」と言われる時は、人からのものではなく、神から与えられたことば、という意味で用いています。そして、聖書と言われる時は、それが「書き記されたもの」という意味で使っています。神は、書き記されていない多くのことを語られましたが、聖書に書き記されていることは、私たちに特別に有益なものとして記録されたのです。それらは、私たちの救いのために知るべきすべてのことが書かれています。

ですから、前回の学びでイエスのみことばに対する態度、すなわち「聖書は破棄されるものではない。」とまとめましたが、もう一度繰り返しましょう。「聖書は破棄されるものではない」というフレーズ以上にみことばの権威を完全に表現するものではありません。

もう一度、みなさんでその言葉を繰り返して宣言しましょう。

「聖書は破棄されるものではない。」

忘れないでください。神は、あなたの人生のあらゆる領域であなたがみことばの権威を受け入れることを期待しておられるので、あなたが言った言葉に責任を持ってくださいます。

では、イエスがどのようにみことばを用いたかを見ていきましょう。ここで、再びイエスのパターンがあります。マタイ4章に、イエスが荒野でサタンの試みに会われた時の場面です。それはマタイ4章ですが、3章の終わりから見ていきましょう。イエスがバプテスマのヨハネからヨルダン川でバプテスマを受けられたときの最後の部分です。

「こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。」

ここは、とても重要です。聖霊がイエスの上に来てとどまられたのです。聖霊は、何度も私たちに下られたことがあるとは思いますが、それは私たちに常にとどまっているわけではありません。なぜなら、それがとどまることができないようなことを私たちは言ったり、行なったりするからです。イエスは、決して聖霊さまを悲しませたり、鳩が飛んで行ってしまふようなことを言ったり、したりしたことはありません。

「また、天からこう告げる声が聞こえた。『これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。』」

あなたは、いや私も、このように思うかもしれません。そのあとは、イエスにとって、すべて簡単に事が運んだのではないかと。イエスは父と御霊、そしてバプテスマのヨハネからも、お墨付きだと。しかし、そうではありませんでした。次に起こったことは、イエスご自身が荒野で40日間断食し、サタンの誘惑に会ったのです。ですから、神の祝福がいつもあなたの人生を容易にしてくださるとは考えないでください。事実、ある意味、人生がさらに難しくさせられるかもしれないのです。と言うのは、サタンは神が油注がれた人たちにさらに激しく敵対するからです。

また、ルカの福音書を見ると、イエスが御霊に導かれて荒野へ行き、40日の終わりに、イエスは御霊の力を帯びて荒野から戻られたと書いてあります。2つの違いに注意してください。一つは、御霊に導かれて、もう一方は、御霊の力による動作です。イエスは、御霊の力による行ないをサタンとの対決に勝つまで行ないませんでした。

そして、あるレベルにおいては、それは私たちひとり一人にも適用できます。私たちは、聖霊の力に動かされるために、誘惑と、敵対するものに打ち勝たなければなりません。

さて、マタイ4章で試みる者、サタンがイエスのところに来たとき、サタンが最初に試みたことは、疑いを起こさせることでした。それは、ほとんどの場合、サタンの最初のアプローチです。サタンは、神のことばを即座に否定するのではなく、質問を投げかけます。あなたに疑いを持たせるのです。このことは、教会の歴史においても数えきれないほど起こり、いつも成功しているように見えたので、サタンは決して他の戦法を見いだす必要はありませんでした。しかし、あなたはそれに引っかけられないでください。そのためには、マタイ4章3節でサタンがイエスに言った最初のことに注目してください。

「すると、試みる者が近づいて来て言った。『あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。』」

神は、まさに天から、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」と言われました。しかし、サタンは、イエスが神から聞いたことを疑わせるように挑戦しています。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」

「イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく・・・』と書いてある。」

偶然にも、イエスがサタンに答えられた3つの答えは、すべて一つの書物、申命記からのものでした。また、興味深いことに、イエスも、サタンも、申命記の権威に疑問は持っていません。ですから、あなたも、権威に疑いを持つような無駄な時間を費やさないでください。

イエスは、そのように誘惑を取り扱いました。それは非常に、非常に重要なことです。イエスは書かれた神のことばに直面する誘惑を取り扱いました。「・・・と書いてある。」このことばは、あなたよりはるかに頭のいいサタンと議論するのにとても賢明だと思いませんか。サタンはずっとこのようにしてきたのです。あなたのことばでサタンと説得しようとせず、みことばを用いてください。イエスは試みを受けるたびに、「・・・と書いてある。」と繰り返しました。そのことばを言うたびに、サタンは、話題を変えました。サタンは、みことばに対する反論ができないことを知っていました。ですから、あなたの哲学や神学でサタンの誘惑に勝とうとしないでください。ただ、書き記された神のことばで応答してください。

おわかりでしょうか。イエスは、エバのような間違いを犯しませんでした。人類の歴史の初めである、創世記3章を見てみると、最初の数節にこうあります。

「さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。『あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。』」

蛇、すなわちサタンは、まずどのようにエバを誘惑しましたか。疑いです。あなたが疑うとき、次の段階は、不信仰で、その次の段階は不従順です。そのことを忘れないでください。疑いを抱かないでください。

エバはサタンのレベルに合わせて考えるという間違いを犯し、「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。」

とサタンに答えました。エバは、「園の中央にある木の実、すなわち、いのちの木以外」という制限があることを認めたくなかったのです。そして、彼女は、「神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」と言ったのです。サタンの答えに注目してください。

「そこで、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死にません。』」

それこそ、サタンが言いたかったことです。サタンは質問から始め、否定へと持っていくます。過去数百年、またそれ以上古い教会の歴史を学ぶなら、サタンが、神学者や説教者、いかなる人物に対してであれ、常にみことばを質問し、それを実際に否定するところまで持っていかせてきたことを見いだすでしょう。滑りやすい下り坂に足を踏み入れないでください。みことばには権威があります。それは神のことばですから、受け入れてください。それに生きてください。みことばでサタンに返答してください。サタンは、書き記された神のことばに反論することはできません。

エペソ6章17節で、パウロは言っています。

「救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。」

みなさんご存知かもしれませんが、ギリシャ語で「ことば」は、2種類の単語があります。一つは「ロゴス」で、もう一つは「レイマ」です。ロゴスは、完全な、永遠の神の助言、レイマは、神が語られることばです。そしてエペソ6:17で使われている、「御霊の剣を受け取りなさい」というのは、すなわちレイマ、神が語られることばです。そして、あなたがサタンに立ち向かうとき、神の語られることばによって立ち向かわなければならないのです。

聖書は、本棚や枕元に置いていただけでは、あなたを守ってくれません。あなたがそれを引用する時のみ、効果があるのです。あなたの口であなた自身のためにそれを用いなければなりません。そして、それが鋭く上がった剣となり、サタンを退けるのです。サタンはそれに反論できる答えを持っていません。

では、イエスが書き記された神のことばの権威について何と言っているかを見てみましょう。私が言ったことを覚えていらっしゃるでしょうか。聖書のことばとは、書き記された神のことばという意味です。マタイ5章 17-18 節でイエスは言っています。

「わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思ってはなりません。」

私たちが旧約聖書と呼んでいるものを、ユダヤ人は律法や預言者と言います。

「廃棄するためではなく、成就するために来たのです。まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。」

さて、一点、一画という単語ですが、一点は現代ヘブル語では、yood という発音で、ヘブル語のアルファベットの中で最も小さな文字です。(日本語で言うと、まさに点です。)また、一画とは、文字を書くときに、似た文字に区別を

つけるためのほんのわずかの曲線です。(日本語なら、カタカナのシとツの違いのようなものでしょうか。)ですから、一点一画とは、書き記されたみことばの最も小さな部分なのです。そしてイエスは、それらの一つでも、決してすたれることはないと言っておられるのです。これは、イエスが、書き記された神のことばの絶対的な権威を認めているということを示しています。イエスはこの時、語られる神のことばについて言っているのではありません。なぜなら、一点一画というのは、書かれたものにだけ当てはまるからです。ですから、イエスは、書き記された神のことばの完全な権威の絶対的な保証をされたのです。

そこからしばらく後の、イエスの公生涯のほぼ終わりに近いマタイ22章で、当時リベラル派だったサドカイ人とのやり取りがあります。サドカイ派の人々はみことばの権威をすべて受け入れていたのではありませんでした。事実、彼らは最初の5つの書物、すなわちモーセ五書の権威だけを受け入れていました。そして彼らは、死からの復活があるという教えに挑戦を仕掛けていました、彼らは抜け目のない質問を持って、イエスのところへ来ましたが、イエスの彼らへの応答は次の通りです。マタイ22章31-32節です。

「それに、死人の復活については、神があなたがたに語られた事を、あなたがたは読んだことがないのですか。『わたしは、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあります。神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。』」

イエスがどのように聖書を適用したかに注目してください。それらのことばは、1400年も前にモーセによって書かれたもので、それらのことばは、実際に主がモーセに直接語られたことばでした。しかし、イエスは、モーセが1400年前にモーセに語られたように彼らに言ったのではありません。これは非常に力強いことばです。イエスは、「あなたがたは読んだことがないのですか。」と言ったのです。お分かりですか。聖書は決して時代遅れになることはありません。それは、ただ人間の賢さの記録ではなく、神のものです。たとえ3000年前に書かれたとしても、今日もなお、神はあなたに語られているのです。それが、イエスが理解していたみことばの権威です。

さて、イエスの生涯が、どのようにみことばを成就したのかについても考えてみなければなりません。新約聖書をよく読んでいくと、イエスの生涯に「聖書が成就した」出来事が18か所見つかるでしょう。つまり、イエスは聖書を信じていただけではなく、また聖書を宣言しただけではなく、聖書に従順だったということです。イエスの全生涯は聖書の実行でした。

イエスの生涯の様々な要素を取り上げることができると思いますが、イエスの誕生、人間としての生活、死、そして復活という4つだけを取り上げましょう。それらすべてについて、聖書には、「聖書が成就されるため」と書いてあります。イエスには、それ以上に聖書の権威を力強く保証するどのような方法もありませんでした。

新約聖書を開きましょう。新約聖書の背後にある権威は何でしょうか。それを知ると驚かれるかもしれませんが、それは旧約聖書と同じです。イエスが弟子たちに語っている2つの箇所を見ましょう。ヨハネ14章25-26節で、イエスは、ご自分が去っていく事実のために弟子たちに心の準備をさせておられます。

「このことをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたがたに話しました。しかし、助け主、すなわち、父が

わたしの名によってお遣わしになる聖霊は……」

助け主、それが聖霊の呼び名です。ある時には、イエスは、聖霊を慰め主とも呼んでいます。

「……父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてください。」

ですから、使徒たちの書き記したものの背後にある権威は聖霊の権威です。そしてイエスは、聖霊は2つのことをする、と言われました。私が教えなかったことは聖霊が教える、そして、私が語ったことであなたがたが忘れてしまったことを思い出させてくださる、です。ですから、福音書の記録は、人間の記憶によるのではなく、聖霊の真理によるのです。

そして、再び、ヨハネ16章12-14節で、同じことが出てきます。イエスは弟子たちに語られています。

「わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると……」

イエスは、聖霊を「その方」と呼んで、擬人法を使っています。原文のギリシャ語ではかなり複雑なので、深入りしませんが、イエスは、「その方」、ではなく、「それ」と呼ぶべきでした。でも、「その方」と呼んだのです。言い換えれば、聖霊は、単なる「物」ではなく、人、「人格」であることを理解してください。あなたは、人格として聖霊とつながる必要があるのです。

「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くまを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。」

再びイエスは、あなたがたがまだ聞いたことのないことをすべてあなたがたに教えるものは、聖霊によってあなたがたのところへ来る、と言われたのです。

そしてこう言われました。

「御霊は自分から語るのではなく、聞くまを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。」

その次の節です。

「御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。」

聖霊のもう一つの極めて重要なしるしをみなさんにお教えしましょう。聖霊は、常にイエスの栄光を現わします。もし、あなたがイエスではなく、ある人や他の何かに栄光を現わす霊的な現象があるのを見たなら、それは聖霊でない

ことは確かです。なぜなら、聖霊の究極の働きは、イエスを啓示し、イエスの栄光を現わすことだからです。これは、霊を見分ける一つの良い方法です。聖書は、私たちは聖霊を見分けなければならないと言っています。そしてあなたは、それが聖霊からのものであるかどうかを見分けることができます。一つの確かな見分け方は、イエスの栄光を現わしているかどうかです。もし、そうでないなら、それがどんなに良さそうに見えても、非常に霊的なようであっても、大声を発している、鳴り響く声であっても、イエスではなく、他の誰かの栄光を現わしているなら、聖霊からのものではありません。そして人間の人格が自分たちで栄光を取り始めるその時、聖霊はこう言います。「残念ですが、私は去ります。あなたは続けていてもいいですが、私はここに居ることができません。」実に多くの働きが、そのようにして誤った方向に行ってしまったことを私は忘れることができません。イエスにだけ捧げなければならない栄光を、人間がとってしまったゆえに、数えきれないほど多くのミニストリーが壊滅的に終わってしまったということを、十分認識しています。私は、自分自身で「イエスに栄光を帰しているだろうか、それとも、私は、デレク・プリンスが重要な人物だということの人々に確信させようとしているのだろうか。」と吟味し続けています。デレク・プリンスは神の恵みによって救われた罪人です。

では、とても興味深く、重要なテーマである、神のこぼの性質に移りましょう。これは、とてもとても、興味深いです。ヘブル4章12節で、神のこぼの性質を分析しているような部分があります。ヘブル4章12節です。

「神のこぼは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く・・・」

お気づきのように、神のこぼを剣と比較しています。

「・・・たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」

ですから、神のこぼは、死んでおらず、白い紙に書かれた単なる黒い印でもなく、説教者の口から出る単なる音でもなく、それは生きていて、それが来るところにはどこでも、いのちがもたらされます。神のこぼは生きていて、力があります。それに力があることを神に感謝します。それは、サタンがこの世を満たしているあらゆる嘘偽りよりも力があります。神のこぼは究極の答えです。

そして、こう言っているのです。

「・・・たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し・・・」

これは、とても興味深いです。脱線してはいけませんが、父、子、聖霊の三位一体の神に似せて造られた人は、霊、たましい、からだという3つからできていると、聖書は啓示しています。しかし、私たちがたましいと霊の違いを学ぶ唯一の方法は、神のこぼによるのです。それは、霊的なものと、たましい的なものの分かれ目を刺し通し、分離することのできる鋭さを持つ唯一の道具です。今その時間はありませんが、それがとても重要なのは、私たちが新約聖書を学ぶとき、様々な方面から、たましい的なものは、霊的なものと^{あいたい}対するものであることがわかるからです。パウロは、コリント人への手紙第一2章で、生まれながら(たましい的)の人は、神の御霊を受け入れず、それを悟ることができ

ないと言っています。ですから、霊的なものとたましい的なものを見分けることを学ぶことは重要です。

しかし、それができるのは、神のことばだけです。

また、神のことばは、関節と骨髄も刺し通します。ですから、みことばは、外科医のメスでも刺し通せない、また、精神科医の分析も刺し通せないところをも、刺し通すことができます。それは、人間の人格の非常に深いところにまっすぐに私たちを導く唯一のものです。

そして、こうあります。

「心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」

判別するとは、分析するという意味で、あるものの、まさに性質を見通します。何年も前、私がまだ救われて間もない頃に、ある人が、「忘れてはいけない、あなたが聖書を読むとき、聖書もあなたを読んでいるのです。」と言った言葉に私はいつも突き刺されています。それは二方向の働きです。私は単に、聖書を神の働きの専門の哲学の教えとして読み始めたばかりだったので、そのことばは、かなり強烈的でした。しかし、私は読むにつれて、読み続けることを私に挫折させる本はこれまでになかったのに、とても退屈で、ただ自分の決意だけで読んでいくと気づき、自分自身についてかなり奇妙な感覚を持ち始めました。私はすべてのことに対する答えを受け取るまで考えました。哲学はすべてのことに対する解決を提供してくれました。しかし、聖書を読み進めていくうちに、私はどんどん自信を失っていきました。自分に何が起きているのか全く分かりませんでした。当時私は25歳でしたが、頭が老化したのかと思いました。私が聖書を読んでいるときに、聖書が私の思いを探っていたことに気づいていませんでした。そしてついには、ダニエル書5章にある、大宴会で人間の手の指で壁に「あなたがはかりで量られて、目方の足りないことがわかった。」と書かれて恐れたベルシャツアル王のように自分が感じられました。私のうぬぼれ、傲慢、横柄さ、知的確信、それらすべてがみことばの前にしぼんでいきました。にもかかわらず、その時はそれを信じるができなかったのですが、聖書は今も働いておられます。ですから、忘れないでください。あなたが聖書を読むとき、あなたの聖書もまた、あなたを読んでいるのです。

では、聖書がどのような働きをするかというもう一つの要素を見るために、テサロニケ人への手紙第一を少し開いてみましょう。2章13節です。パウロは、福音のメッセージに素晴らしい応答をしたテサロニケの信者に宛てて書いています。

「こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けるとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。」

お分かりのように、聖書があなたの内にどのように働かれるかは、どのようにそれを受け取るかということにかかっているのです。もし、あなたがそれを単なる人のことばとして受けるなら、あなたがたの内に十分に働くことはありません。しかし、あなたが神のことばとして聖書を受け取るなら、あなたの内に効果的に働くのです。

そして、あなたが聖書を読むとき、主にこう言いましょう。「私はこのあなたのことばを信じます。あなたのことばとして受け入れます。私はあなたを信じているので、あなたがお遣わしになったすべてのことが私の霊、たましい、からだのすべての領域で私のうちに働いてくださいますように。」

それから、私が思うに、聖書の中でも最も注目に値する声明の一つである、ペテロの手紙第二1章でペテロが言った宣言を見る必要があります。第二ペテロ1章 3、4節です。それはその節をまたいだ中ほどにあります。

「…主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。」

これは素晴らしいことばです。神の全能の力が、私たちに必要なすべてのことをすでに与えてくださっているのです。あなたはこう思うかもしれません。「でも、私にはそれがあると思えません。どこにあるのでしょうか。」次の節でこう教えています。

「それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」

神は、人生のため、また神のご性質にあずかるために必要なすべてのものを、どのように与えてくださっていますか。私は、自分が作った「備えは約束の中にある」というこの短い文章が気に入っています。一緒に言いましょう。「備えは約束の中にある。」 ですから、神があなたのために備えてくださっているものを受け取りたいと願うなら、あなたは神の約束によって受け取らなければなりません。なぜなら、あなたが必要としているすべてのものが、その約束の中にあるからです。

しかし、みことばはイエスを啓示しているので、イエスの知識を通して備えはやって来ます。そしてこの素晴らしい宣言が聖書の中にこのように明確に書かれていなかったら、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となることができる、と大胆に私は言うことができないでしょう。

さて、もし私たちが十分に長く継続して正しいことを行なえば、神のようになれるという教えのようなものが、一時期とても流行したことに私たちは十分注意しなければなりません。みなさんの中にもそのような教えに出会ったことのある方もいらっしゃると思います。ニューエイジと呼ばれるものです。私は以前、「新しい時代」が来るという意味で、ニューエイジという言葉を使っていました。彼らが私からそれを盗んでしまったので、他の言葉を考えなければなりません。とにかく、私が言っていることは、神の国がこの地に建て上げられるということです。イエスは、ご自身の王国を確立されます。そのことをニューエイジは嫌います。

とにかく、ニューエイジは、ヒンズー教の哲学などを多く組み入れ、偶然にも、モルモンも同様の教えですが、長期間継続することを教えます。最初は公言しませんが、長く続けていると、あなたは神になれると言うのです。みなさんにお伝えしたいことは、それは明らかな間違いで、その根本的な理由をお教えしましょう。神は被造物ではなく、私たちは被造物です。そして被造物は決して創造主にはなれないのです。ですから、それは欺きです。しかし、私たちは、

神の約束を受け入れ、適用することで、神のご性質にあずかる者となることができます。

私はいつもヤコブのはしごのことを思い浮かべます。みなさんも、ヤコブが見た夢のことを知っておられると思います。ヤコブは一人で荒野に出て、石を枕にして寝ました。みなさんの中で石を枕に使いたいと思う人がいらっしゃるでしょうか。私は、スーダン北部のハダンドア族のところに行ったとき、彼らが石を枕にしているのを見ました。ある日一人のスーダン人を観察していると、彼はかなり鋭く長い石を取り、地面に置いてその石の上に頭を乗せ、気持ちよさそうに眠りつきました。ですから、できるにはできますが、みなさんはそれを楽しむことはないでしょう。しかし、ヤコブは、石に頭を乗せて寝ていました。ある人がこう言ったことがあります。「ヤコブのその後のことが私にも起こるなら、私も石の上に頭を乗せて寝たい！なぜなら、ヤコブは天に届くはしごの夢を見たからです。」はしごの下は地上に、はしごの先は天にあり、神の御使いたちが上り下りしていました。イエスご自身ははしごの先で語られました。

しかし、私は、聖書はある意味ヤコブのはしごだと思います。いいですか、一つ一つの約束はそのはしごの一段です。そして、あなたが新しい約束を適用するたびに、あなたは一段上っていきます。そして最終的には、あなたを天国へと導いてくれます。ですから、決して聖書を軽視しないでください。聖書はあなたの健康と、あなたの成功の鍵です。聖書は、神が私たちに与えてくださった最も貴いプレゼントです。今日、あまりにも多くの聖書があり、どの訳を使おうか、また、挿絵や注釈がついている方がいいかと迷いますが、現在世界中の何十億という人々が聖書を一度も開いたことがないことを忘れないでください。彼らには選択の余地がないのです。また、もう一つのことを覚えておきましょう。過去何世紀にも渡って、多くの人々が、みなさんや私のためにいのちを賭けて聖書を守ってきました。ですから、聖書を尊びましょう。神が私たちの人生にやって来てくださった道である、聖書に敬意を払いましょう。

では、残り時間も少なくなってきたので、少しワクワクすることでこのセクションの締めくくりたいと思います。それは、神のことばの効果です。パウロは、テサロニケの人々に、この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのですと言いました。ですから、神のことばがあなたの人生にもたらす8つの働きについて、紹介したいと思います。神のことばが、みなさんや私のためにして下さることです。

第一に、ローマ 10 章 17 節です。

「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」

私は、医者が現地の気候では治せない皮膚病にかかり、北アフリカの砂漠の病院で1年間入院していたので、私にとってそれはとても素晴らしいみことばでした。医師たちは、それを慢性のアトピー性皮膚炎だと言うようになりました。そして現在でもそのアトピーには良い治療方法がありません。私はクリスチャンになったばかりで、自分自身にこう言い聞かせ続けていました。「私に信仰があるなら、神はいやして下さる。」しかし、その次にいつも言っていたことは、「でも、私には信仰がない・・・」でした。それは、ジョン・バニヤンが落胆の泥沼、絶望の淵と呼んでいたところに私はいたのです。私には信仰がありませんでした。

そしてある日、まばゆい光がその暗闇の淵の中に差し込みました。それはローマ 10:17 から来たのです。そして、信仰がやって来ました。

もし、あなたに信仰があるなら、それを得ることができます。信仰なしのままでははいけません。信仰は神のことばを聞くことによってやって来るのです。

そして、今この時も、神のことばを聞いているみなさんの多くに信仰が訪れて来ています。新約聖書の時代、多くの人は聖書を大声で読んでいました。自分一人であっても、大声で読んでいたのです。例えば、馬車に乗っていたエチオピアの宦官が自分のためにイザヤ書を読んでいるのがピリポに聞こえてきました。大声を出して読むということに意味があるのです。それは、あなた自身が読むのを自分の耳で聞いて、信仰がやって来るからです。お分かりでしょうか。

これがまず一つ、聖書が成してくださることです。

二つ目に、新しいいのちを生み出します。神のことばによって私たちは生まれ変わります。ヤコブの手紙 1 章 18 節で、こう言っています。

「父はみこころのままに、真理のことば(すなわち聖書)をもって私たちをお生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。」

神のみこころのままに、です。神はなぜそうしたのでしょうか。そう決められたからです。それ以上の説明はありません。すべてのものの始まりを振り返ると、それはすべて神の決心によって始まっています。神は、ご自身のために一人の人を生み出すことを決め、それが、神のことば、聖書によって生み出されるように決められたのです。そして、そのことがみなさんや私が新しい被造物である神の民となるために、神を知るように導いたのです。それは、神のことばによるのです。

そして、ペテロの手紙第一で、ペテロは同じテーマで語っています。第一ペテロ 1 章 22-23 節です。

「あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。」

たましいをどのようにきよめるのでしょうか。真理に従うことによって、です。真理を聞くことによるのではなく、従うことによります。その結果、何が起こるでしょうか。偽りのない愛です。

そして、こう続けています。

「…新しく生まれた…」

新しく生まれた、ということに注目して下さい。

「…朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり…」
朽ちない種とは何ですか。

「生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。」

神のことばの種を信仰によって心に受け取ると、新しいいのちを生み出すのです。朽ちない種が生み出すものは、朽ちないものです。種の性質は、そこから生まれるいのちの性質を決定づけます。リンゴの種を植えて、みかんの実をならせることはできません。種の性質がいのちの性質を決定づけます。神のことばは、朽ちることがなく、生み出されるいのちは朽ちることがありません。それは、神のご性質であり、聖く、永遠のものです。

そして、あなたは新しく生まれたなら、栄養が必要になります。素晴らしいことに、神のことばは霊的成長のあらゆる段階のためにふさわしい栄養を提供してくれます。あなたが霊的にまだ赤ちゃんであるなら、ミルクが必要であり、そのことをペテロは第一ペテロ 2 章 2 節で言っています。

「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」

ですから、あなたが新しく生まれ変わったのなら、神のことばに対して健康的な食欲を持つべきです。その証拠に、これを聞いているみなさんの多くが、生まれ変わった時、やりたいと願ったことの一つは、聖書を読むことだったはずで、私たちは、私たちの実際の栄養となる健康的な食欲を持った健康的な赤ちゃんとして生まれました。

しかし、私たちは成長するにつれて、パンのようなものが必要になります。イエスが荒野でサタンに、石がパンになるように命じると誘惑された時、イエスはこう答えました。

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」

ですから、神のことばはミルクだけではなく、パンでもあります。

私たちは成長するにつれて、より固い食物が必要で、これもまた与えられています。ヘブル書は、背景的に聖書の知識をもったユダヤ人たちに書かれており、著者はヘブル 5 章でこう書いています。神が今、私たちの内のある者たちに言いたいことを、著者はそのユダヤ人たちに言っています。「あなたたちの知識からすると、今の状態ではいけない。」 そう言っているのです。「あなたは聖書の知識がありながら、それを用いていない。」と。ヘブル 5 章 12 節を読みましょう。

「あなたがたは年数からすれば教師になつていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。」

何が問題なのでしょう。彼らは非常に単純で基礎的な真理以上のことを消化できなかったのです。

「まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。しかし、堅い食物はおとな(成熟した人)の物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。」

お分かりですか。成熟のためにはあなたの感覚を訓練しなければならいのです。神のこばを適用しなければなりません。あなたの取り扱っている問題、あなたがいる状況を認識してそれを用いなければなりません。それが成熟への道です。もし、今までに真剣に神のこばを適用したことがなく、神のこばによって生きていないなら、あなたは決して成熟した者になることはできないし、ミルクや小さなパン以上のものを摂ることはできないでしょう。しかし、堅い食物は訓練され、実行し、人生の中で喜んで、常にみこばを適用してきた人たちだけのものです。

それは、神のこばの3つめの働きです。霊的栄養です。

4つ目の働きは、精神的な光です。詩篇 119 篇を開きましょう。みなさんもよく知っておられる箇所だと思いますが、詩篇 119:130 です。

「みこばの戸が開くと、光が差し込み、わきまえない者に悟りを与えます。」

神のこばの戸が開き、私たちの思いと心の中に入って光を与えます。それは教育とは異なります。教育は光ではありません。まったくの暗闇の中で教育を受けることはできます。なぜそんなことが言えると思いますか。私がそうであったからです。私の人生に神のこばの光が差しこむまでは、高等教育を受け、真つ暗闇の中にいました。ですから、忘れないでください。教育は光ではありません。

何年も前に、私は東アフリカで、教育を受けたいと願っているある人と関わっていました。私は以前そのような人たちのために、「あなたは教育を求めているけれど、知恵は見いだしましたか」という小さなトラクトを書きました。その中で、知恵と教育は同じでないということを指摘しました。このトラクトは世界の問題のほとんどが、愚かな教育によるものだと言ったので、ある人々にとっては衝撃的でした。アメリカのルーズベルト前大統領はかつてこう言いました。「泥棒は列車の一両を盗むが、その泥棒を教育すると、列車まるごと盗むだろう。」ですから、教育は役立ちますが、光ではないということを忘れないでください。事実、教養のあるほとんどの人が最も深い暗闇にいるのです。神のこばの扉だけが光を与えるのです。

そして5つ目、神のこばは体の癒しをもたらします。これは、私自身の経験から言えることです。詩篇 107 篇 17-20 節を読んでみましょう。まず 17 節です。

「愚か者は、自分のそむきの道のため、また、その咎のために悩んだ。」

間違っただ道に行ってしまったために、苦しんでいる人をあなたは見たことがありますか。私のところには実に多くの人がいやしを求めてきました。その問題の根源が間違っただ生き方であると考えている人はほとんどおらず、自分の咎が悩みの原因だと見当違いのことを言います。

「彼らのたましいは、あらゆる食物を忌みきらい、彼らは死の門にまで着いていた。この苦しみのときに、彼らが主に向かって叫ぶと、主は彼らを苦悩から救われた。主はみこばを送って彼らをやし、その滅びの穴から彼らを助け出された。」

主はみことばを送るときに3つのことをされることに注目してください。主は救い、いやし、解放されます。罪からの救い、病の癒し、悪の力からの解放という、神のあわれみの3つの大いなるみわざです。主は何よりもみことばを通してそれらを成されます。

経験からこれを知ったのですが、みなさんの中にも、手を置いて祈ってもらって癒されるようにと、説教者を探していらっしゃる方がいるでしょう。それは起こるかもしれませんが。多くの方が、私に祈ってもらえばいやされると考えて、私のところにやって来ることを私は知っています。しかし、彼らは癒されません。実際、彼らが本当に探しているのは、デレク・プリンスという人物であって、主ではないことがわかっているので、私はしばらく考え込んでしまいます。実は、たとえ説教者がいなくても、あなたが、神が送った神のことばを受け入れるなら、あなたは癒され、苦しみから解放されます。

これは私の病を治す薬がない時に、私を退院させてくれた私の大好きなみことば、箴言4章20-22節です。

「わが子よ。私のことばをよく聞け。私の言うことに耳を傾けよ。それをあなたの目から離さず、あなたの心のうちに保て。見いだす者には、それはいのちとなり、その全身を健やかにする。」

神のことばは、全身を健やかにする、と言っています。

私は、当時、7か月ほど入院していました。医者は私をいやすことができず、私はこう思いました。「もし、私に信仰さえあれば、神は私をいやしてくれる。」そして、「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによる。」というみことばに出会いました。私は希望を持ち始め、新たな希望を抱いて聖書を再び読み始めました。しかし、私には問題があったのです。私は哲学の専門家でした。哲学の仕事とは、単純なものを複雑にすることです。ですから、私は神のことばを単純に受け取ることができませんでした。私は神のいやしの約束をいくら読んでも、神がいやしてくださるのは、私のたましいだけだと考えていました。神は私のからだに関心がなく、それは腐敗したもので、どうせ死ぬのだ、と。「わがたましいよ、主をほめたたえよ。私のすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし」とあるのは、たましいの病だけと考えていました。しかし、私が箴言4:20-22に出会ったとき、それから逃れることはできませんでした。神は、みことばは見いだす者には、それはいのちとなり、その全身を健やかにすると言っています。私は、たとえ哲学者であっても、肉体を肉体以外のものにすることはできないのですと言いました。私の全身をいやしてください。そして、私が聖書の脚注に目をやると、健やかとは薬とも読めるとありました。私は、突然、軍の薬の服用方法のことを思いました。人はどのように薬を服用するのでしょうか。答えは、毎食後です。私はそれを実行しようと思いました。内容を深く学ぶより、とにかく3、4か月間私の薬として神のことばを毎食後読みました。そして、世界の中でも最も不健康な天候の場所の一つであるスーダンにおいて、完全で永遠の癒しと健康を私にもたらしました。

ですから、みなさん、それは起こるのです。

では、神のことばの働きの残りの三つをざっと見ていきましょう。6番目は罪とサタンに打ち勝つ、です。詩篇119篇9節と11節です。

「どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。」
そして、11 節。

「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」

今日、非常に多くの若者が、聖い道を歩むことが本当に可能かと疑問に思っています、教育者たちのほとんどは、若者たちに不可能だと教えます。教育者たちは、自分たちの考える安全なセックスを勧めますが、それは決して安全なものではありません。しかし、聖書は、神のことばによって自分の道に注意する若者は、聖く保てると言っています。

神に感謝すべきは、私がアフリカの若者たちと働いていたとき、そのことばが幾度も成就してきたのを見てきたことです。彼らは、神のことばに従って、純粋にされ、きよい生活を送っていました、

そして、マタイ 4 章でイエスがサタンに誘惑された時、イエスは一つの武器だけで立ち向かいました。「…と書かれている。」です。

急いでいきましょう。エペソ 5 章 25-27 節です。

「夫たちよ、…自分の妻を愛しなさい。」

夫たちに言います。この言葉は提案ではなく、命令です。

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。」

イエスは、どのように、聖く傷のない花嫁をご自身のために備えられるのでしょうか。みことばによる水の洗いをもって、です。神のことばは私たちをきよめ、聖なるものとしてくださいます。これがみことばの働きの 7 つ目です。

ヨハネはイエスについて、水と血によって来られた方だと言いました。水だけではなく、血にもよってです。イエスの犠牲の血によって、私たちを贖い、みことばの水によって私たちをきよめ、聖なるものとしてくださいます。どちらも必要です。私たちは地によって贖われ、みことばによってきよめられます。

そして最後、8 つ目です。ヤコブの手紙 1 章 23-25 節に聖書は霊的な鏡だとあります。その鏡をのぞき込むと、肉眼で見える物を映し出すのではなく、あなたの内側にあるものを映し出します。ヤコブは、あなたが鏡を見るとき、何かおかしいところがあれば、変だと気づくと言っています。もし、髪型が変わったら、髪をとかします。顔が汚れていたら、洗います。あなたは鏡で見たものに対して行動を起こします。そこでヤコブはあなたが神のことばという鏡を見

て、気づいたことを行なう必要があると言っているのです。その鏡に霊的な自分を見る必要があり、示されたことを行なう必要があります。

復習して締めくくりましょう。神のことばの 8 つの働きです。

1. 信仰を生み出す。
2. 新しいいのちの種
3. 霊的栄養
4. 精神に光をもたらす
5. からだのいやしをもたらす
6. 罪とサタンに打ち勝つことを可能にする
7. 洗いきよめられる
8. 霊的な鏡

以上です。アーメン